

平成27年11月11日

平成27年度 消防庁における熱中症対策

1. 救急搬送人員数調査

平成27年度調査概要

方法：サーベイランスシステムを使って全国の消防本部から週毎に報告

期間：4月27日～10月4日(平成27年度から半月分、前倒して実施)

公表：週毎に速報値としてHP上に公表し、月毎に確定値として報道発表

平成27年度調査の結果

- ・ 5月から9月までの全国における熱中症による救急搬送人員数の累計は5万5,852人。
- ・ 月別の救急搬送人員数は、5月2,904人、6月3,032人、7月が2万4,567人(H20年以降過去最多)、8月が2万3,925人。
- ・ 7月27日から8月9日までの期間は2週連続で1万人を超え、この時期に熱中症による救急搬送人員数が集中した。9月の救急搬送人員数は1,424人だった(過去最少)。

調査データの提供

- ・ 11月上旬に自治体及び関係機関に通知し、要望に応じて提供する

平成26年度は国立環境研究所等研究機関、行政関係者等、約70件を提供した。

2. 予防に係る普及啓発等

消防の取り組み

- ・ 消防庁に特設HP「熱中症情報」を開設し、熱中症搬送人員数調査結果及び熱中症対策リーフレット等の情報を入手可能にしている。
- ・ 消防庁ツイッター(フォロワー数:60万)を用いて、4月27日～10月4日にかけて、国民に注意を呼びかけた。
- ・ 馴化(体が慣れる)前の発生及び残暑による発生を予防するために、応急手当講習等の機会を活かして熱中症予防対策を強化するように促した。(5月27日、8月5日通知)
- ・ 熱中症予防強化月間の一環として、80万部の熱中症対策リーフレットを全国の消防機関に配布し、応急手当講習等に活用するよう促した。(6月22日通知)

関係省庁との連携

- ・ 環境省と連携しWBGTに係る情報について、消防庁ツイッターで配信した。また、熱中症搬送人員数調査を各地のWBGTデータの観点から分析し公表した。

3. 2020年オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた取り組み

- ・ 救急業務のあり方に関する検討会にて、熱中症予防を含めた応急手当講習、多数傷病者発生時の対策等について、先進事例調査及び実態調査等を実施し検討している。

平成 27 年の熱中症による救急搬送状況

熱中症による救急搬送人員数について、平成 27 年（5 月から 9 月まで）の確定値を取りまとめましたので、その概要を公表します。

概 要

- 平成 27 年 5 月から 9 月までの全国における熱中症による救急搬送人員数の累計は 5 万 5,852 人でした。月別の救急搬送人員数は、7 月が最多で 2 万 4,567 人、8 月が 2 番目で 2 万 3,925 人でした。7 月の救急搬送人員数の 2 万 4,567 人は、平成 20 年からの調査開始以降、7 月の救急搬送人員数としては過去最多となりました。また、週別の救急搬送人員数は、7 月 27 日から 8 月 9 日までの期間 2 週連続で 1 万人を超えており、この時期に熱中症による救急搬送人員数が集中する結果となりました。これは北・東日本では 7 月中旬以降、西日本でも 7 月下旬以降に晴れて気温の高い日が多く、各地で梅雨明けした 8 月上旬を中心に日最高気温が 35℃以上の猛暑日が続いたことが要因と考えられます。
- 全国の熱中症による救急搬送状況の年齢区分別、傷病程度別の内訳等については次の通りです。
 - 救急搬送人員数の年齢区分では、高齢者が最も多く、次いで成人、少年、乳幼児、新生児の順となっています。平成 20 年の調査開始以降初めて高齢者の割合が 50%を超えました。
 - 搬送された医療機関での初診時における傷病程度をみると、軽症が最も多く、次いで中等症、重症、死亡の順となっています。
 - 都道府県別人口 10 万人当たりの救急搬送人員数は、和歌山県が最も多く、次いで熊本県、岡山県の順でした。

消防庁では調査期間中、ツイッターを通じた注意喚起や、以下の HP にて熱中症による救急搬送状況の速報値を毎週発表するとともに、熱中症予防策等について紹介した「熱中症対策リーフレット」を公表しています。

消防庁熱中症情報

http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html

熱中症対策リーフレット

<http://www.fdma.go.jp/html/data/tuchi2705/pdf/270501-1.pdf>

【資料】 [平成 27 年の熱中症による救急搬送状況](#)
[平成 27 年 9 月の熱中症による救急搬送状況](#)



(連絡先)
消防庁救急企画室
担当：寺谷、平井、足立
電話：03-5253-7529
FAX：03-5253-7539

平成27年の熱中症による救急搬送状況の概要

平成27年5月から9月までの熱中症による救急搬送状況について調査を行ったところ、その概要は以下のとおりでした。

1 総 数

平成27年5月から9月までの全国における熱中症による救急搬送人員数の累計は5万5,852人でした。月別の救急搬送人員数は、7月が最多で2万4,567人、8月が2番目で2万3,925人でした。7月の救急搬送人員数の2万4,567人は、平成20年から調査開始以降、7月の救急搬送人員数としては過去最多となりました。また、週別の救急搬送人員数は、7月27日から8月9日までの期間2週連続で1万人を超えており、この時期に熱中症による救急搬送人員数が集中する結果となりました。これは北・東日本では7月中旬以降、西日本でも7月下旬以降に晴れて気温の高い日が多く、各地で梅雨明けした8月上旬を中心に日最高気温が35℃以上の猛暑日が続いたことが要因と考えられます。（資料1、2、3、4-1、4-2、6）

2 内 訳

(1) 年齢区分ごとの救急搬送人員数

高齢者（65歳以上）が2万8,016人（50.2%）と半数以上を占め、次いで成人（18歳以上65歳未満）1万9,998人（35.8%）、少年（7歳以上18歳未満）7,333人（13.1%）、乳幼児（生後28日以上7歳未満）503人（0.9%）、新生児（生後28日未満）2人（0.0%）の順となっています。平成20年の調査開始以降初めて高齢者の割合が50%を超えました。（資料1、2）

(2) 医療機関での初診時における傷病程度ごとの救急搬送人員数

軽症が最も多く3万5,520人（63.6%）、次いで中等症1万8,467人（33.1%）、重症1,361人（2.4%）、死亡105人（0.2%）となっています。（資料1、2）

(3) 都道府県別人口10万人当たりの救急搬送人員数

和歌山県が最も多く69.75人であり、次いで熊本県64.49人、岡山県64.26人の順となっています。（資料5、6）

【参 考】

○ 熱中症の予防対策について

熱中症を予防するには、こまめな水分補給、エアコン・扇風機を用いた室温調整及び適度な休憩をとること等が大切です。また、高齢者は暑さを自覚しにくい、喉の渇きを感じにくく、小さな子供は汗腺が未熟なため、体温調整がしにくいという特徴があります。周囲の方の気遣いが熱中症発生の予防につながります。

消防庁では調査期間中、ツイッターを通じた注意喚起や、以下のHPにて熱中症による救急搬送状況の速報値を毎週発表するとともに、熱中症予防策等について紹介した「熱中症対策リーフレット」を公表しています。

消防庁熱中症情報

http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html

熱中症対策リーフレット

<http://www.fdma.go.jp/html/data/tuchi2705/pdf/270501-1.pdf>

○気象庁「夏（6月～8月）の天候」より

6月は太平洋高気圧の沖縄付近への張り出しが強く、沖縄・奄美の月平均気温は平年差+1.8℃と、6月としては最も高温（統計開始1946年）となった。7月上旬以降、日本の南東海上で次第に太平洋高気圧の勢力が強まり、7月中旬から8月上旬にかけて本州付近に張り出した。北・東日本では7月中旬以降、西日本でも7月下旬以降は晴れて気温の高い日が多く、各地で梅雨明けして8月上旬を中心に日最高気温が35℃以上の猛暑日となった所が多かった。夏の平均気温は6月が顕著な高温だった沖縄・奄美でかなり高く、7月中旬から8月上旬にかけて太平洋高気圧の張り出しが強まった北日本で高かった。気温の高い時期と低い時期があった東日本は平年並だった。夏の日照時間は、前線や台風、湿った気流の影響を受けやすかった西日本から沖縄・奄美にかけて少なく、西日本太平洋側ではかなり少なかった。また、西日本太平洋側と沖縄・奄美では夏の降水量もかなり多く、西日本では2年連続の冷夏となった。

平成 27 年 9 月の熱中症による救急搬送状況（確定値）の概要

平成27年9月の熱中症による救急搬送状況について調査を行ったところ、その概要は以下のとおりでした。

1 総数

また、平成 27 年 9 月の全国における熱中症による救急搬送人員数は 1,424 人でした。昨年同時期の救急搬送人員数 1,824 人と比べると 400 人減となっています。これは、9 月の気温が東・西日本では、上旬に前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多く、中旬に大陸から冷涼な空気が流れ込んだ影響で低かったこと等が要因と考えられます。

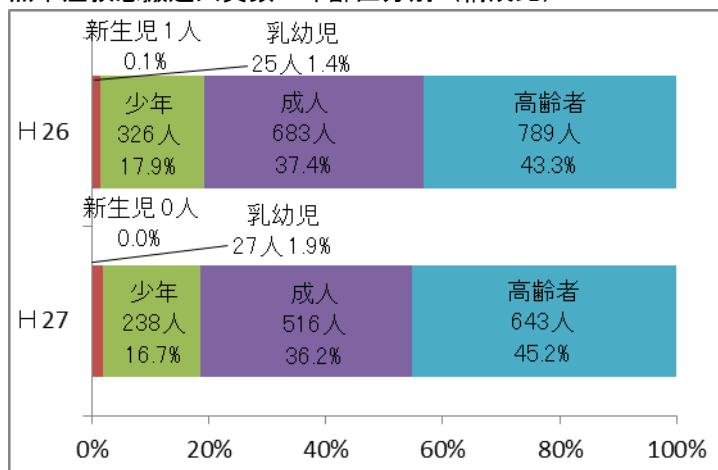
気象庁によると、10 月に入っても一部の地域で真夏日（30℃以上）が観測される日もあり、気温は全国的に平年並みか高いと見込まれていることから、熱中症への警戒が引き続き必要です。（資料 1、5、6、7）

2 内訳

（1）年齢区分ごとの救急搬送人員数

- 高齢者（65 歳以上）が 643 人（45.2%）、次いで成人（18 歳以上 65 歳未満）516 人（36.2%）、少年（7 歳以上 18 歳未満）238 人（16.7%）、乳幼児（生後 28 日以上 7 歳未満）27 人（1.9%）の順となっています。（資料 1）

熱中症救急搬送人員数 年齢区分別（構成比）



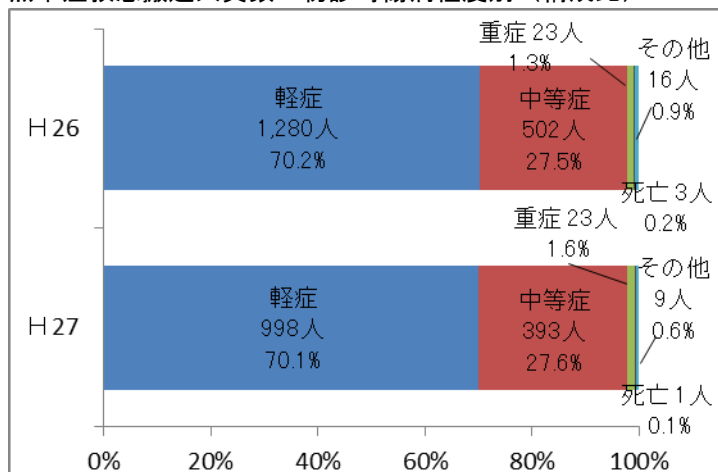
凡例

新生児：生後 28 日未満の者
 乳幼児：生後 28 日以上満 7 歳未満の者
 少年：満 7 歳以上満 18 歳未満の者
 成人：満 18 歳以上満 65 歳未満の者
 高齢者：満 65 歳以上の者

（2）医療機関での初診時における傷病程度ごとの救急搬送人員数

- 軽症が最も多く 998 人（70.1%）、次いで中等症 393 人（27.6%）、重症 23 人（1.6%）、死亡 1 人（0.1%）となっています。（資料 1）

熱中症救急搬送人員数 初診時傷病程度別（構成比）

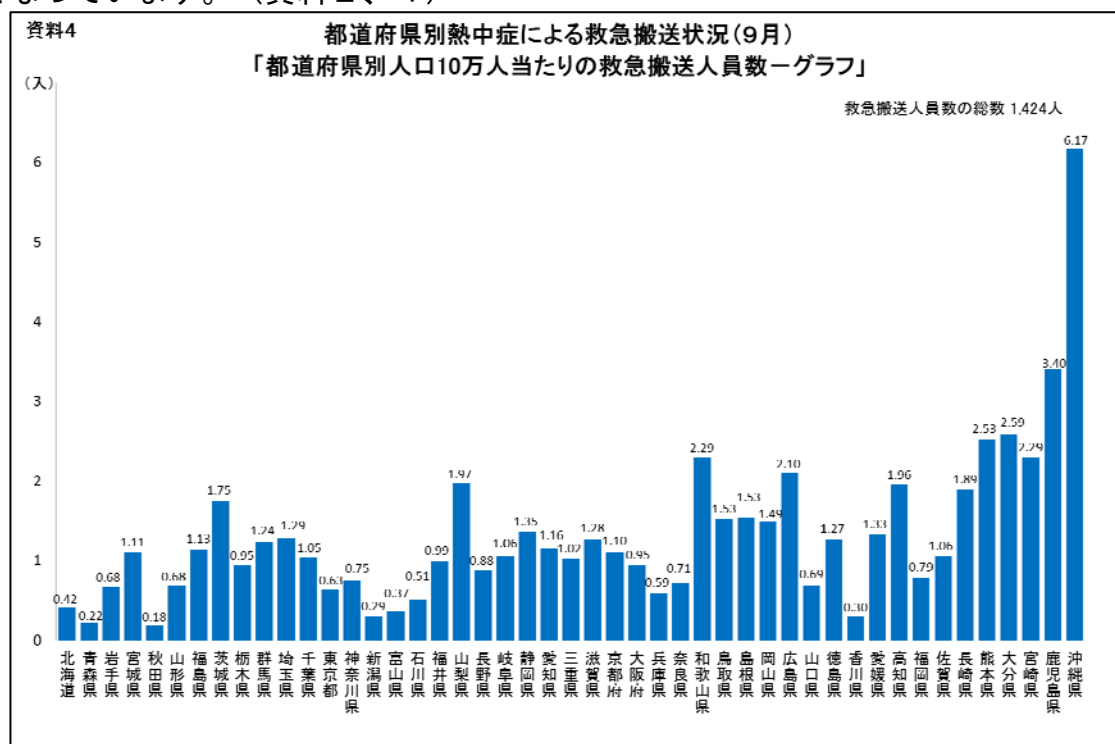


凡例

軽 症：入院を必要としないもの
 中等症：重症または軽症以外のもの
 重 症：3 週間の入院加療を必要とするもの以上
 死 亡：医師の初診時に死亡が確認されたもの
 その他：医師の診断がないもの
 傷病程度が判明しないもの
 その他の場所に搬送したもの

(3) 都道府県別人口 10 万人当たりの救急搬送人員数

沖縄県が最も多く 6.17 人であり、次いで鹿児島県 3.40 人、大分県 2.59 人の順となっています。(資料 2、4)



【参 考】

○ 消防庁熱中症情報

http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html

○ 気象庁「9月の天候」より

9月の初めから11日頃までは、低気圧や前線が日本付近を通過することが多く、東北地方から奄美地方にかけては、8月下旬から引き続いて、曇りや雨の日が多く気温の低い日が続いた。東日本太平洋側では上旬の降水量が平年比418%、東日本日本海側では上旬の日照時間が平年比36%となり、9月上旬としては1961年の統計開始以来、それぞれ最多および最少の記録を更新した。その後は月末まで、本州付近は高気圧と低気圧や前線が交互に通過し、北・東・西日本では、概ね天気は数日の周期で変化したが、西日本では、中旬は、大陸からの冷涼で乾いた高気圧に覆われた日が多く、気温がかなり低かった。沖縄地方では、台風の影響を受けた日もあったが、月を通して高気圧に覆われて晴れた日が多くなった。

9月の平均気温は、東・西日本では、上旬に前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多く、中旬に大陸から冷涼な空気が流れ込んだ影響で低く、西日本では上・中旬はかなり低かった。北日本と沖縄・奄美は、平年並だった。

平成27年の熱中症による救急搬送状況

- 資料 1 平成 27 年の都道府県別熱中症による救急搬送状況
「年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数一表」
- 資料 2 全国の熱中症による救急搬送状況（平成 23 年～27 年）
「年齢区分別、初診時における傷病程度別搬送割合一表・グラフ」
- 資料 3 平成 27 年の都道府県別月別熱中症による救急搬送状況一グラフ
- 資料 4－1、2 都道府県別月別熱中症による救急搬送状況一表
（平成 23 年～27 年）
- 資料 5 平成 27 年の都道府県別熱中症による救急搬送状況
「都道府県別人口 10 万人当たりの救急搬送人員数一グラフ」
- 資料 6 都道府県別人口 10 万人当たりの救急搬送状況一表
（平成 23 年～27 年）

資料1

平成27年の都道府県別熱中症による救急搬送状況 「年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数一表」

都道府県		平成27年5月1日～9月30日											
		年齢区分(人)						初診時における傷病程度(人)					
		新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合計	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
1	北海道	0	15	109	283	501	908	2	25	262	573	46	908
2	青森県	0	2	30	110	196	338	0	18	129	191	0	338
3	岩手県	0	0	63	159	281	503	4	18	175	306	0	503
4	宮城県	0	9	158	412	523	1,102	3	47	576	476	0	1,102
5	秋田県	0	2	59	116	222	399	2	13	116	259	9	399
6	山形県	0	6	83	145	227	461	2	20	151	281	7	461
7	福島県	0	8	143	404	651	1,206	2	21	331	852	0	1,206
8	茨城県	0	14	218	618	711	1,561	6	36	529	989	1	1,561
9	栃木県	0	13	135	378	494	1,020	1	35	366	618	0	1,020
10	群馬県	0	10	211	423	564	1,208	2	39	414	748	5	1,208
11	埼玉県	0	25	474	1,471	1,914	3,884	9	119	1,209	2,547	0	3,884
12	千葉県	1	33	335	1,012	1,143	2,524	4	47	902	1,571	0	2,524
13	東京都	0	33	454	1,860	2,287	4,634	4	168	1,814	2,648	0	4,634
14	神奈川県	0	37	378	1,128	1,281	2,824	1	82	1,012	1,729	0	2,824
15	新潟県	0	11	116	366	570	1,063	2	19	299	730	13	1,063
16	富山県	0	2	56	117	157	332	1	15	104	209	3	332
17	石川県	0	7	71	156	245	479	1	16	127	335	0	479
18	福井県	0	7	32	116	186	341	2	9	141	189	0	341
19	山梨県	0	7	92	139	214	452	1	9	165	277	0	452
20	長野県	1	4	118	252	443	818	2	19	310	487	0	818
21	岐阜県	0	9	158	355	505	1,027	1	39	465	522	0	1,027
22	静岡県	0	14	225	557	732	1,528	4	25	400	1,099	0	1,528
23	愛知県	0	29	447	1,342	1,884	3,702	5	85	1,039	2,573	0	3,702
24	三重県	0	7	100	363	476	946	1	16	192	632	105	946
25	滋賀県	0	10	87	255	321	673	0	12	145	513	3	673
26	京都府	0	4	162	517	822	1,505	2	15	315	1,173	0	1,505
27	大阪府	0	26	524	1,418	1,746	3,714	9	34	906	2,765	0	3,714
28	兵庫県	0	26	313	835	1,334	2,508	4	41	752	1,711	0	2,508
29	奈良県	0	4	117	240	345	706	0	10	208	488	0	706
30	和歌山県	0	9	88	216	386	699	4	15	155	522	3	699
31	鳥取県	0	0	54	86	137	277	1	6	137	133	0	277
32	島根県	0	2	41	92	208	343	0	12	163	167	1	343
33	岡山県	0	12	136	403	699	1,250	3	29	364	792	62	1,250
34	広島県	0	10	145	403	733	1,291	2	28	537	724	0	1,291
35	山口県	0	3	87	167	248	505	2	10	163	330	0	505
36	徳島県	0	5	50	119	253	427	2	20	150	240	15	427
37	香川県	0	6	73	169	331	579	2	20	251	305	1	579
38	愛媛県	0	9	84	228	381	702	1	13	159	528	1	702
39	高知県	0	4	57	119	278	458	2	12	110	325	9	458
40	福岡県	0	18	305	660	910	1,893	1	29	917	930	16	1,893
41	佐賀県	0	5	66	156	238	465	3	5	147	275	35	465
42	長崎県	0	3	62	185	308	558	2	14	224	318	0	558
43	熊本県	0	10	206	374	582	1,172	0	22	435	714	1	1,172
44	大分県	0	5	71	185	292	553	1	13	252	287	0	553
45	宮崎県	0	2	83	211	293	589	0	16	200	371	2	589
46	鹿児島県	0	11	94	328	464	897	1	22	380	494	0	897
47	沖縄県	0	15	163	350	300	828	1	23	169	574	61	828
合計【人】		2	503	7,333	19,998	28,016	55,852	105	1,361	18,467	35,520	399	55,852
割合		0.0%	0.9%	13.1%	35.8%	50.2%	100.0%	0.2%	2.4%	33.1%	63.6%	0.7%	100.0%

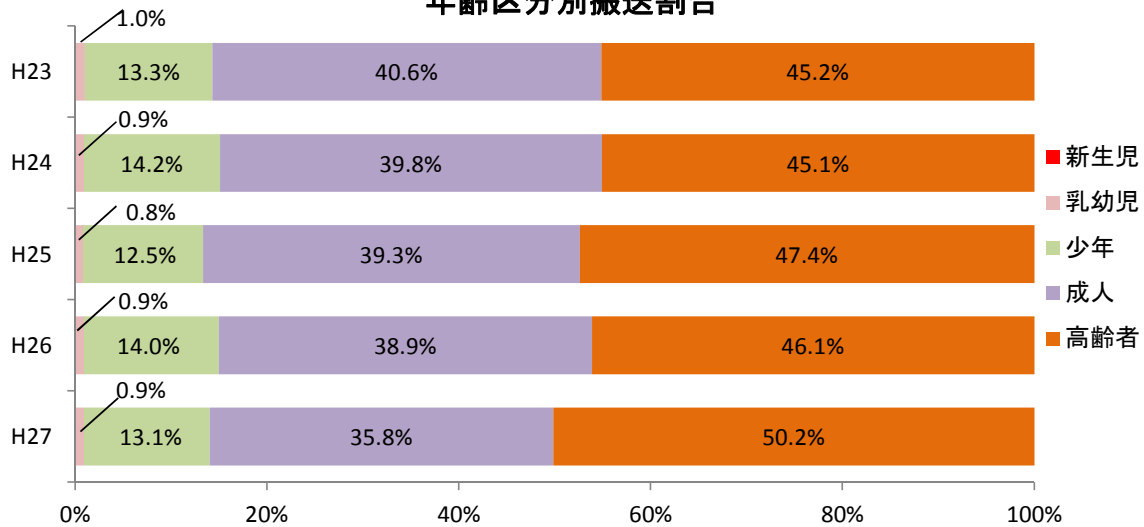
※熱中症の搬送人員に対する割合の算出に当たっては、端数処理(四捨五入)のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

資料2

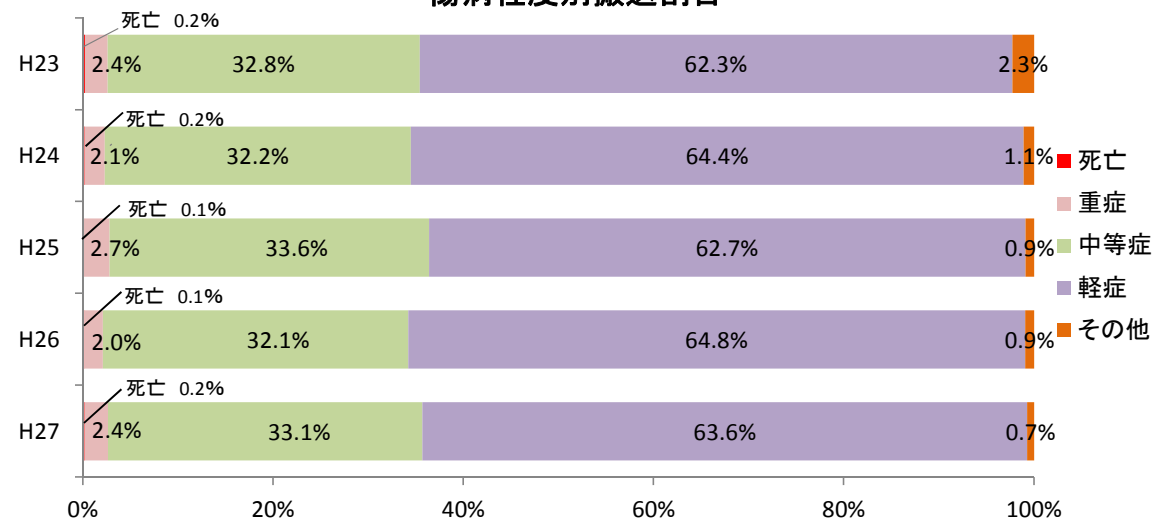
全国の熱中症による救急搬送状況(平成23年～27年)

	年齢区分(人)						初診時における傷病程度(人)					
	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合計	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
H23年	0	442	6,182	18,847	20,998	46,469	73	1,134	15,240	28,946	1,076	46,469
	0.0%	1.0%	13.3%	40.6%	45.2%		0.2%	2.4%	32.8%	62.3%	2.3%	
H24年	5	412	6,467	18,192	20,625	45,701	76	980	14,736	29,426	483	45,701
	0.0%	0.9%	14.2%	39.8%	45.1%		0.2%	2.1%	32.2%	64.4%	1.1%	
H25年	6	466	7,367	23,062	27,828	58,729	88	1,568	19,754	36,805	514	58,729
	0.0%	0.8%	12.5%	39.3%	47.4%		0.1%	2.7%	33.6%	62.7%	0.9%	
H26年	4	359	5,622	15,595	18,468	40,048	55	787	12,860	25,967	379	40,048
	0.0%	0.9%	14.0%	38.9%	46.1%		0.1%	2.0%	32.1%	64.8%	0.9%	
H27年	2	503	7,333	19,998	28,016	55,852	105	1,361	18,467	35,520	399	55,852
	0.0%	0.9%	13.1%	35.8%	50.2%		0.2%	2.4%	33.1%	63.6%	0.7%	

年齢区分別搬送割合



傷病程度別搬送割合



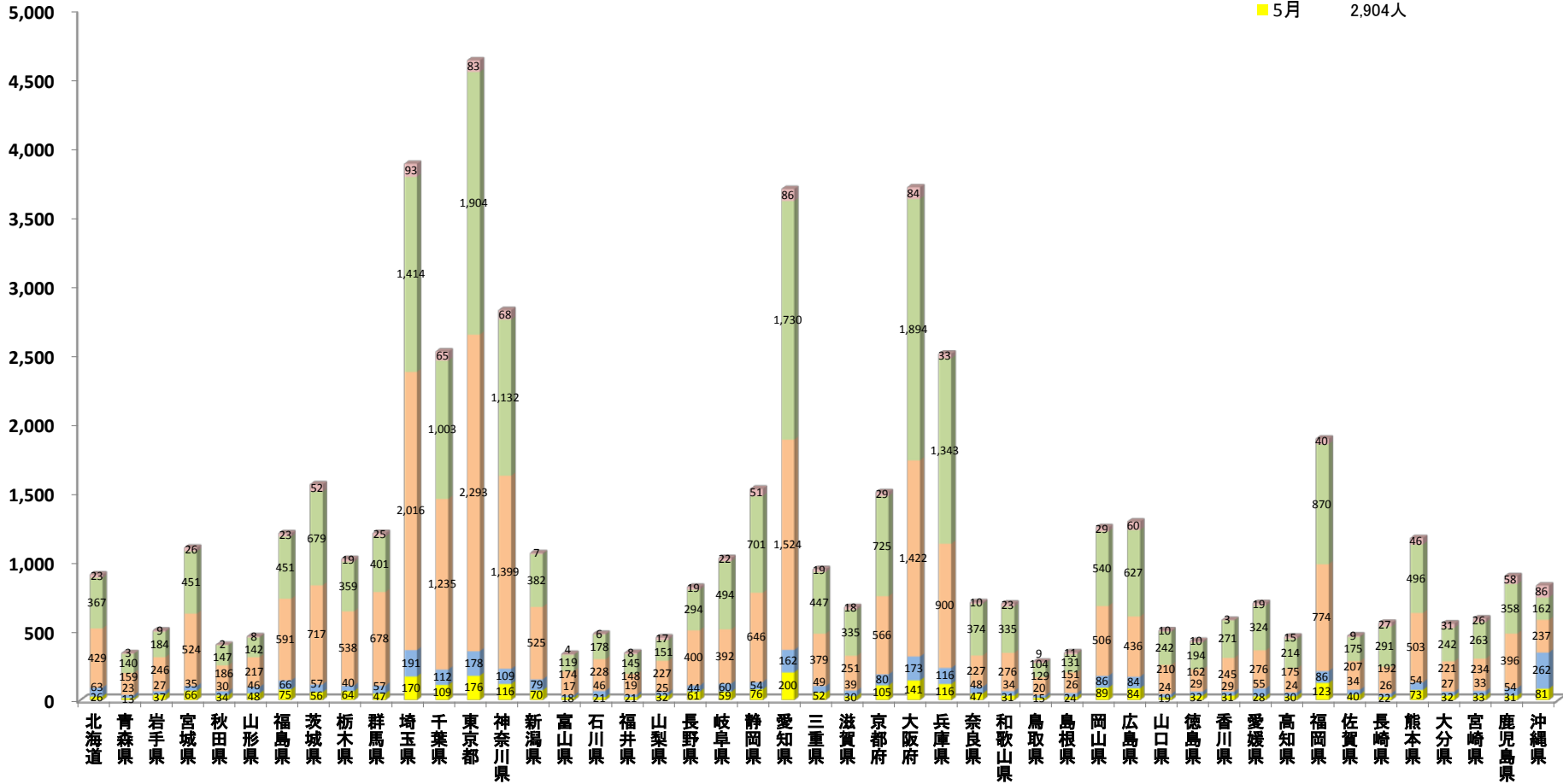
* 割合の算出に当たっては、端数処理(四捨五入)のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

資料3

平成27年の都道府県別月別熱中症による救急搬送状況ーグラフ

9月 1,424人
 8月 23,925人
 7月 24,567人
 6月 3,032人
 5月 2,904人

(人)



都道府県別月別熱中症による救急搬送状況一表(平成23年～27年)

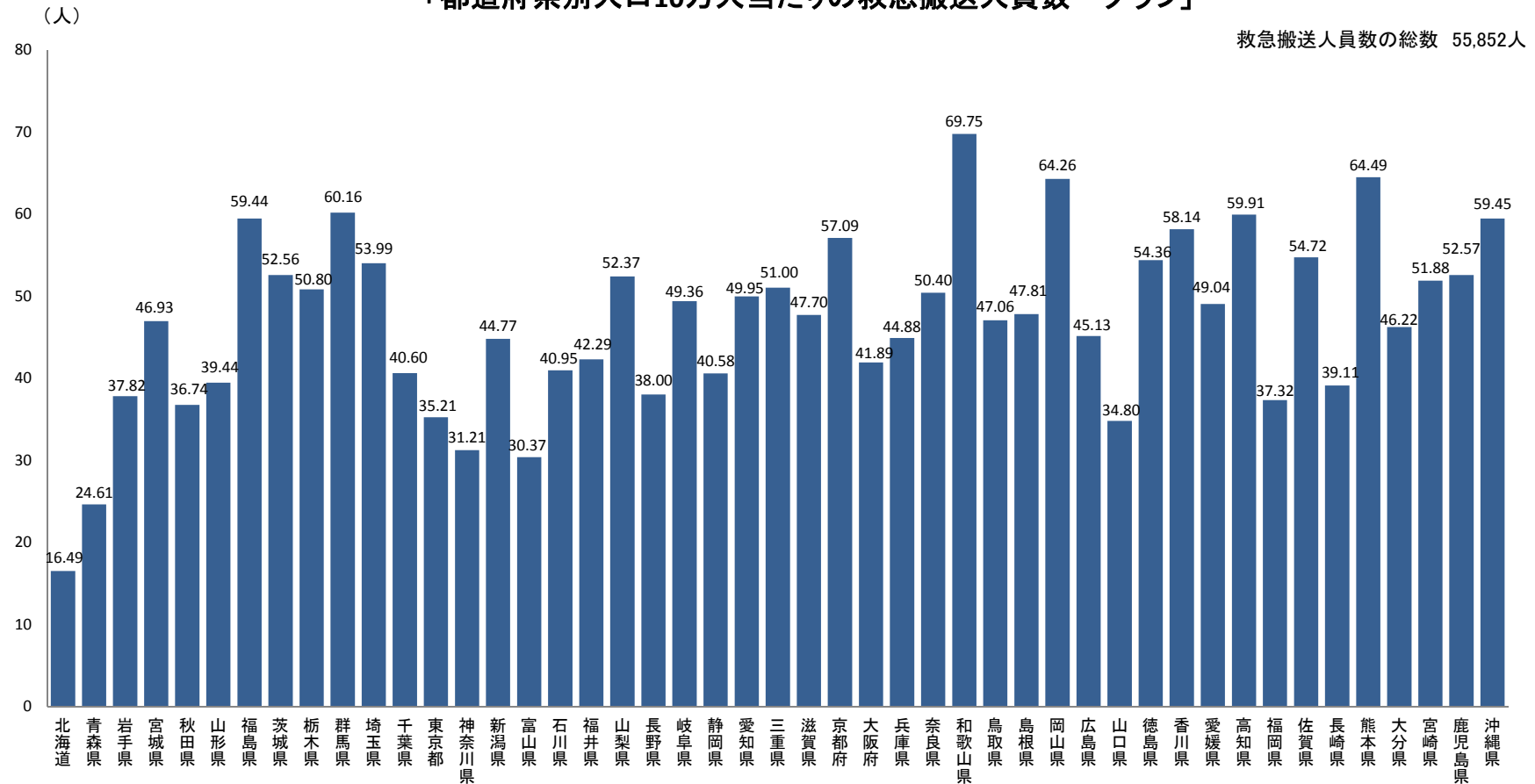
都道府県		5月～7月の救急搬送人員数										
		5月	6月					7月				
		平成27年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
1	北海道	26	67	77	123	212	63	236	419	430	289	429
2	青森県	13	17	18	23	35	23	122	122	83	106	159
3	岩手県	37	35	30	48	40	27	257	216	62	125	246
4	宮城県	66	77	28	44	76	35	436	347	171	265	524
5	秋田県	34	13	33	72	59	30	201	137	85	99	186
6	山形県	48	39	13	59	50	46	173	145	54	141	217
7	福島県	75	65	39	84	103	66	405	357	250	384	591
8	茨城県	56	132	36	53	97	57	473	608	532	531	717
9	栃木県	64	102	46	36	55	40	354	366	329	333	538
10	群馬県	47	171	45	60	80	57	450	454	468	409	678
11	埼玉県	170	534	89	195	270	191	1,257	1,459	1,523	1,217	2016
12	千葉県	109	266	46	112	178	112	827	861	1,349	901	1235
13	東京都	176	414	83	169	307	178	1,427	1,433	2,024	1,263	2293
14	神奈川県	116	320	54	125	179	109	815	939	1,473	889	1399
15	新潟県	70	74	37	128	124	79	530	461	231	349	525
16	富山県	18	25	6	25	35	17	148	181	105	112	174
17	石川県	21	38	43	34	46	46	226	202	144	155	228
18	福井県	21	38	6	22	40	19	139	139	116	117	148
19	山梨県	32	58	7	22	33	25	108	95	173	163	227
20	長野県	61	77	35	58	103	44	311	328	280	295	400
21	岐阜県	59	141	31	104	94	60	328	427	457	333	392
22	静岡県	76	232	24	75	136	54	408	458	690	473	646
23	愛知県	200	794	107	254	323	162	1,227	1,483	1,992	1,186	1524
24	三重県	52	221	17	95	85	49	276	458	513	312	379
25	滋賀県	30	110	12	58	67	39	224	297	298	265	251
26	京都府	105	236	54	164	145	80	467	651	679	564	566
27	大阪府	141	542	95	362	289	173	916	1,285	1,453	1,190	1422
28	兵庫県	116	344	73	230	216	116	691	880	998	879	900
29	奈良県	47	133	19	81	75	48	223	304	285	239	227
30	和歌山県	31	132	21	62	65	34	182	249	290	231	276
31	鳥取県	15	27	7	21	23	20	152	177	119	96	129
32	島根県	24	23	22	30	30	26	133	180	129	147	151
33	岡山県	89	170	56	174	113	86	346	535	435	381	506
34	広島県	84	132	60	168	112	84	454	499	552	356	436
35	山口県	19	46	24	45	39	24	204	249	321	197	210
36	徳島県	32	46	19	46	23	29	74	141	186	140	162
37	香川県	31	81	20	49	45	29	149	252	251	205	245
38	愛媛県	28	107	23	34	57	55	228	334	367	269	276
39	高知県	30	58	29	42	30	24	115	171	219	155	175
40	福岡県	123	223	67	131	101	86	670	918	1,193	742	774
41	佐賀県	40	48	27	41	31	34	148	174	204	126	207
42	長崎県	22	48	15	38	32	26	254	241	325	187	192
43	熊本県	73	138	56	87	77	54	313	443	451	385	503
44	大分県	32	98	36	46	49	27	213	245	359	227	221
45	宮崎県	33	57	24	72	27	33	144	220	315	254	234
46	鹿児島県	31	115	42	81	44	54	339	349	479	388	396
47	沖縄県	81	116	86	183	184	262	190	193	257	337	237
合計		2,904	6,980	1,837	4,265	4,634	3,032	17,963	21,082	23,699	18,407	24,567

都道府県別月別熱中症による救急搬送状況一表(平成23年～27年)

都道府県	8月～9月の救急搬送人員数										
	8月					9月					
	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	
1	北海道	352	434	308	276	367	19	178	22	18	23
2	青森県	143	229	159	124	140	30	98	13	15	3
3	岩手県	170	219	164	174	184	13	53	19	12	9
4	宮城県	306	356	474	477	451	48	119	36	19	26
5	秋田県	129	308	146	103	147	32	85	23	5	2
6	山形県	104	227	172	167	142	29	38	24	8	8
7	福島県	355	463	472	472	451	84	93	49	14	23
8	茨城県	443	466	759	630	679	170	161	91	35	52
9	栃木県	323	284	456	383	359	116	68	39	23	19
10	群馬県	401	378	471	445	401	126	60	41	14	25
11	埼玉県	1,357	1,131	1,617	1,364	1,414	293	257	207	57	93
12	千葉県	949	862	1,498	893	1,003	231	199	197	60	65
13	東京都	1,692	1,422	2,087	1,613	1,904	299	235	255	79	83
14	神奈川県	1,118	879	1,522	897	1,132	225	186	205	73	68
15	新潟県	406	546	515	473	382	118	137	102	27	7
16	富山県	129	171	176	148	119	22	38	11	18	4
17	石川県	142	249	169	179	178	40	55	31	13	6
18	福井県	100	147	161	92	145	21	42	26	3	8
19	山梨県	113	90	159	110	151	34	18	23	12	17
20	長野県	252	301	301	179	294	60	39	34	10	19
21	岐阜県	307	319	450	168	494	67	62	53	42	22
22	静岡県	541	454	864	322	701	93	113	88	68	51
23	愛知県	1,151	973	1,703	778	1,730	218	169	141	115	86
24	三重県	309	225	552	187	447	34	53	47	28	19
25	滋賀県	193	208	328	174	335	31	45	18	28	18
26	京都府	463	562	799	311	725	90	114	73	36	29
27	大阪府	982	1,114	2,064	844	1,894	302	350	185	148	84
28	兵庫県	711	913	1,282	487	1,343	164	176	123	84	33
29	奈良県	186	199	335	149	374	42	51	56	27	10
30	和歌山県	162	176	322	131	335	39	51	34	25	23
31	鳥取県	103	152	179	54	104	34	20	18	8	9
32	島根県	113	180	139	69	131	26	55	18	13	11
33	岡山県	369	401	608	233	540	82	124	69	59	29
34	広島県	396	461	799	225	627	95	92	72	68	60
35	山口県	176	201	373	102	242	47	29	34	17	10
36	徳島県	115	121	198	87	194	15	23	10	21	10
37	香川県	191	174	344	115	271	48	43	19	26	3
38	愛媛県	222	262	367	159	324	49	65	36	21	19
39	高知県	152	139	292	121	214	19	24	21	20	15
40	福岡県	563	673	1,222	324	870	121	54	139	83	40
41	佐賀県	120	168	298	72	175	40	35	30	26	9
42	長崎県	188	294	422	109	291	66	42	39	33	27
43	熊本県	205	309	599	147	496	50	56	98	52	46
44	大分県	155	163	334	108	242	37	27	20	13	31
45	宮崎県	150	144	291	127	263	22	53	36	40	26
46	鹿児島県	218	276	420	238	358	63	67	139	86	58
47	沖縄県	141	150	262	143	162	56	57	69	122	86
合 計		17,566	18,573	27,632	15,183	23,925	3,960	4,209	3,133	1,824	1,424

資料5

平成27年の都道府県別熱中症による救急搬送状況 「都道府県別人口10万人当たりの救急搬送人員数ーグラフ」



都道府県別人口10万人当たりの救急搬送状況一表(平成23年～27年)

都道府県	6月1日～9月30日								5月1日～9月30日	
	平成23年熱中 症搬送人員 (人)		平成24年熱中 症搬送人員 (人)		平成25年熱中 症搬送人員 (人)		平成26年熱中 症搬送人員 (人)		平成27年熱中 症搬送人員 (人)	
	人口10万人当たりの 搬送人員(人)	人口10万人当たりの 搬送人員(人)	人口10万人当たりの 搬送人員(人)	人口10万人当たりの 搬送人員(人)	人口10万人当たりの 搬送人員(人)	人口10万人当たりの 搬送人員(人)	人口10万人当たりの 搬送人員(人)	人口10万人当たりの 搬送人員(人)	人口10万人当たりの 搬送人員(人)	人口10万人当たりの 搬送人員(人)
1 北海道	674	11.98	1,108	20.12	883	16.04	795	14.64	908	16.49
2 青森県	312	21.72	467	34.00	278	20.24	280	20.97	338	24.61
3 岩手県	475	34.30	518	38.94	293	22.03	351	27.10	503	37.82
4 宮城県	867	36.73	850	36.20	725	30.88	837	35.95	1,102	46.93
5 秋田県	375	32.74	563	51.84	326	30.02	266	25.33	399	36.74
6 山形県	345	28.37	423	36.19	309	26.43	366	32.08	461	39.44
7 福島県	909	43.47	952	46.92	855	42.14	973	50.00	1,206	59.44
8 茨城県	1,218	40.94	1,271	42.80	1,435	48.32	1,293	44.11	1,561	52.56
9 栃木県	895	44.38	764	38.05	860	42.84	794	39.98	1,020	50.80
10 群馬県	1,148	56.72	937	46.66	1,040	51.79	948	47.78	1,208	60.16
11 埼玉県	3,441	48.78	2,936	40.81	3,542	49.23	2,908	40.27	3,884	53.99
12 千葉県	2,273	37.53	1,968	31.66	3,156	50.77	2,032	32.82	2,524	40.60
13 東京都	3,832	30.47	3,173	24.11	4,535	34.46	3,262	24.53	4,634	35.21
14 神奈川県	2,478	28.19	2,058	22.74	3,325	36.75	2,038	22.45	2,824	31.21
15 新潟県	1,128	46.39	1,181	49.74	976	41.10	973	41.76	1,063	44.77
16 富山県	324	29.14	396	36.22	317	29.00	313	29.09	332	30.37
17 石川県	446	37.99	549	46.93	378	32.31	393	33.91	479	40.95
18 福井県	298	36.27	334	41.42	325	40.31	252	31.70	341	42.29
19 山梨県	313	35.39	210	24.33	377	43.68	318	37.54	452	52.37
20 長野県	700	31.87	703	32.66	673	31.27	587	27.66	818	38.00
21 岐阜県	843	40.01	839	40.32	1,064	51.13	637	31.06	1,027	49.36
22 静岡県	1,274	33.59	1,049	27.86	1,717	45.60	999	26.83	1,528	40.58
23 愛知県	3,390	46.73	2,732	36.87	4,090	55.19	2,402	32.27	3,702	49.95
24 三重県	840	44.99	753	40.60	1,207	65.08	612	33.39	946	51.00
25 滋賀県	558	40.42	562	39.84	702	49.76	534	37.71	673	47.70
26 京都府	1,256	47.44	1,381	52.39	1,715	65.06	1,056	40.35	1,505	57.09
27 大阪府	2,742	31.10	2,844	32.08	4,064	45.84	2,471	27.92	3,714	41.89
28 兵庫県	1,910	34.16	2,042	36.54	2,633	47.12	1,666	29.97	2,508	44.88
29 奈良県	584	41.09	573	40.91	757	54.04	490	35.43	706	50.40
30 和歌山県	515	49.71	497	49.59	708	70.64	452	46.17	699	69.75
31 鳥取県	316	52.06	356	60.48	337	57.25	181	31.31	277	47.06
32 島根県	295	39.75	437	60.91	316	44.05	259	36.89	343	47.81
33 岡山県	967	49.41	1,116	57.37	1,286	66.11	786	40.73	1,250	64.26
34 広島県	1,077	37.44	1,112	38.87	1,591	55.61	761	26.80	1,291	45.13
35 山口県	473	31.69	503	34.66	773	53.26	355	25.00	505	34.80
36 徳島県	250	30.87	304	38.70	440	56.02	271	35.19	427	54.36
37 香川県	469	46.33	489	49.10	663	66.58	391	39.70	579	58.14
38 愛媛県	606	41.29	684	47.78	804	56.17	506	36.01	702	49.04
39 高知県	344	43.20	363	47.48	574	75.09	326	43.76	458	59.91
40 福岡県	1,577	31.23	1,712	33.75	2,685	52.94	1,250	24.56	1,893	37.32
41 佐賀県	356	41.09	404	47.54	573	67.43	255	30.36	465	54.72
42 長崎県	556	37.60	592	41.49	824	57.75	361	25.84	558	39.11
43 熊本県	706	38.32	864	47.54	1,235	67.95	661	36.70	1,172	64.49
44 大分県	503	41.58	471	39.36	759	63.43	397	33.70	553	46.22
45 宮崎県	373	32.35	441	38.85	714	62.89	448	40.00	589	51.88
46 鹿児島県	735	41.92	734	43.02	1,119	65.58	756	45.00	897	52.57
47 沖縄県	503	36.94	486	34.89	771	55.36	786	55.55	828	59.45
合計	46,469		45,701		58,729		40,048		55,852	

平成 27 年 9 月の熱中症による救急搬送状況

- 資料 1 都道府県別熱中症による救急搬送状況
「年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数一表」
- 資料 2 都道府県別熱中症による救急搬送状況
「救急搬送人員数昨年比一表」
- 資料 3 都道府県別熱中症による救急搬送状況
「救急搬送人員数昨年比一グラフ」
- 資料 4 都道府県別熱中症による救急搬送状況
「都道府県別人口 10 万人当たりの救急搬送人員数一グラフ」
- 資料 5 全国の熱中症による救急搬送状況
「日別の年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数一表」
- 資料 6 日別の救急搬送人員数（全国）と暑さ指数（WBGT）データとの比較一グラフ
- 資料 7 平成 22 年～27 年の熱中症による救急搬送人員数及び死亡者数一覧一表
- 資料 8 平成 27 年の熱中症による救急搬送状況（週別推移）一グラフ

資料1

都道府県別熱中症による救急搬送状況(9月)
「年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数一表」

都道府県		平成27年9月1日～9月30日											
		年齢区分(人)					初診時における傷病程度(人)						
		新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合計	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
1	北海道	0	2	4	7	10	23	0	1	8	14	0	23
2	青森県	0	1	1	0	1	3	0	0	1	2	0	3
3	岩手県	0	0	1	5	3	9	0	1	2	6	0	9
4	宮城県	0	0	8	5	13	26	0	1	9	16	0	26
5	秋田県	0	0	0	1	1	2	0	0	0	2	0	2
6	山形県	0	1	2	1	4	8	0	0	0	7	1	8
7	福島県	0	0	6	8	9	23	0	0	4	19	0	23
8	茨城県	0	0	9	28	15	52	0	2	12	38	0	52
9	栃木県	0	0	2	5	12	19	0	1	7	11	0	19
10	群馬県	0	0	5	9	11	25	0	0	3	21	1	25
11	埼玉県	0	1	18	34	40	93	0	1	20	72	0	93
12	千葉県	0	1	9	27	28	65	0	1	18	46	0	65
13	東京都	0	0	8	42	33	83	0	1	25	57	0	83
14	神奈川県	0	2	8	30	28	68	0	1	29	38	0	68
15	新潟県	0	1	1	3	2	7	0	0	0	7	0	7
16	富山県	0	0	1	3	0	4	0	0	1	3	0	4
17	石川県	0	0	2	2	2	6	0	0	2	4	0	6
18	福井県	0	0	3	2	3	8	0	0	4	4	0	8
19	山梨県	0	1	3	8	5	17	0	0	5	12	0	17
20	長野県	0	0	1	4	14	19	0	0	10	9	0	19
21	岐阜県	0	1	6	3	12	22	0	0	7	15	0	22
22	静岡県	0	2	12	18	19	51	0	0	7	44	0	51
23	愛知県	0	2	26	27	31	86	0	1	21	64	0	86
24	三重県	0	0	2	5	12	19	0	2	2	13	2	19
25	滋賀県	0	4	4	3	7	18	0	0	4	14	0	18
26	京都府	0	0	1	13	15	29	0	0	5	24	0	29
27	大阪府	0	0	14	43	27	84	0	0	10	74	0	84
28	兵庫県	0	0	10	8	15	33	0	0	5	28	0	33
29	奈良県	0	0	3	2	5	10	0	0	2	8	0	10
30	和歌山県	0	0	6	5	12	23	0	0	4	19	0	23
31	鳥取県	0	0	2	3	4	9	0	0	5	4	0	9
32	島根県	0	0	1	3	7	11	0	0	7	4	0	11
33	岡山県	0	0	4	7	18	29	0	2	11	15	1	29
34	広島県	0	3	3	19	35	60	0	3	21	36	0	60
35	山口県	0	0	3	3	4	10	0	0	2	8	0	10
36	徳島県	0	0	1	3	6	10	0	0	3	7	0	10
37	香川県	0	1	1	1	0	3	0	0	1	2	0	3
38	愛媛県	0	0	2	3	14	19	0	0	2	17	0	19
39	高知県	0	0	3	4	8	15	0	0	4	11	0	15
40	福岡県	0	0	5	11	24	40	0	1	20	19	0	40
41	佐賀県	0	0	3	2	4	9	0	0	2	7	0	9
42	長崎県	0	1	4	4	18	27	1	3	8	15	0	27
43	熊本県	0	0	3	17	26	46	0	0	22	24	0	46
44	大分県	0	0	3	12	16	31	0	1	15	15	0	31
45	宮崎県	0	0	3	12	11	26	0	0	4	22	0	26
46	鹿児島県	0	1	7	19	31	58	0	0	19	39	0	58
47	沖縄県	0	2	14	42	28	86	0	0	20	62	4	86
合計【人】		0	27	238	516	643	1,424	1	23	393	998	9	1,424
割合		0.0%	1.9%	16.7%	36.2%	45.2%	100.0%	0.1%	1.6%	27.6%	70.1%	0.6%	100.0%

※熱中症の搬送人員に対する割合の算出に当たっては、端数処理(四捨五入)のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

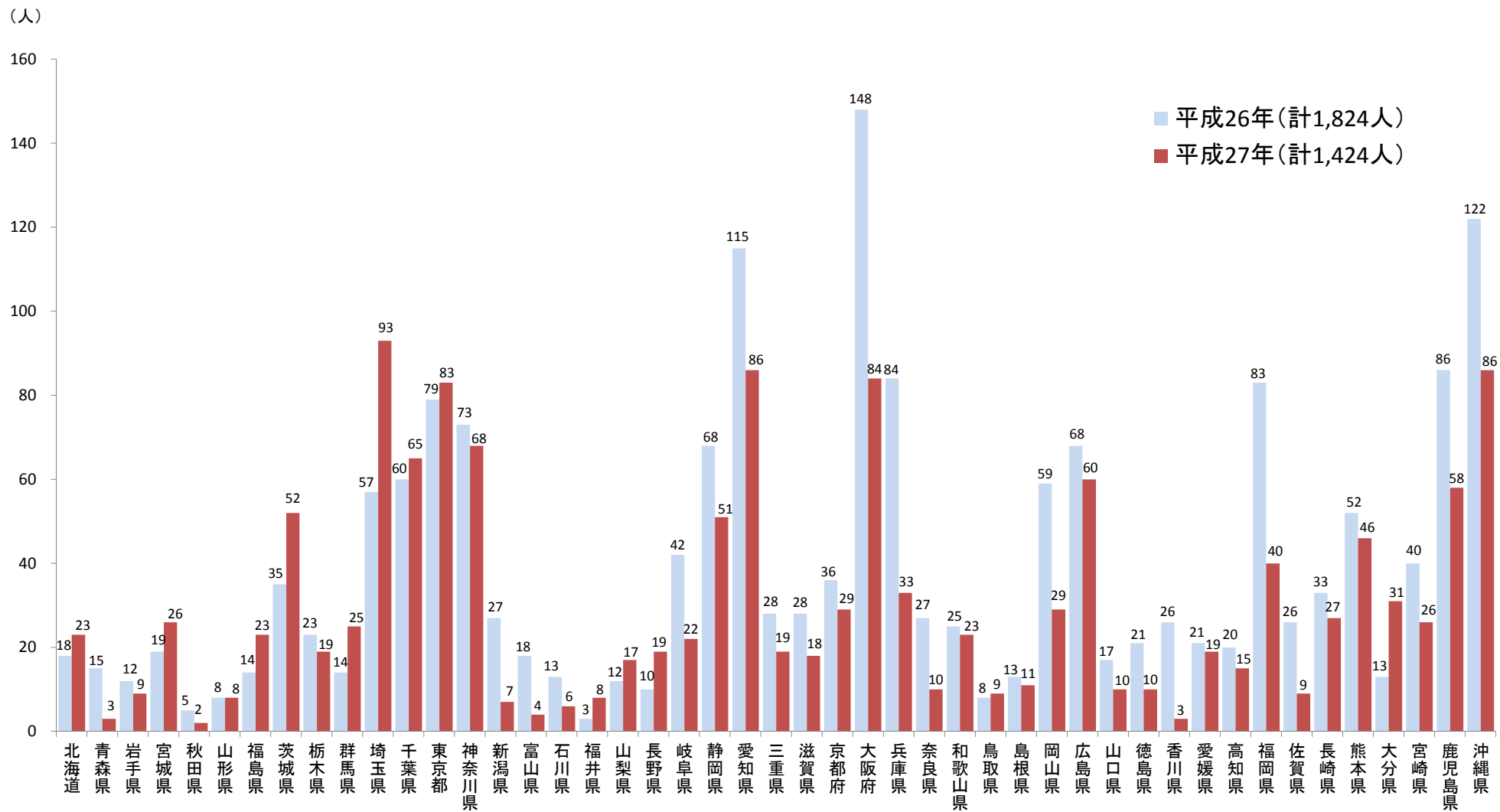
資料2

都道府県別熱中症による救急搬送状況(9月)
「救急搬送人員数昨年比一表」

都道府県	9月1日～9月30日			
	平成26年熱中症 救急搬送人員数 (人)	平成27年熱中症 救急搬送人員数 (人)	うち人口10万人当たりの 救急搬送人員数(人)	昨年比(倍)
1 北海道	18	23	0.42	1.3
2 青森県	15	3	0.22	0.2
3 岩手県	12	9	0.68	0.8
4 宮城県	19	26	1.11	1.4
5 秋田県	5	2	0.18	0.4
6 山形県	8	8	0.68	1.0
7 福島県	14	23	1.13	1.6
8 茨城県	35	52	1.75	1.5
9 栃木県	23	19	0.95	0.8
10 群馬県	14	25	1.24	1.8
11 埼玉県	57	93	1.29	1.6
12 千葉県	60	65	1.05	1.1
13 東京都	79	83	0.63	1.1
14 神奈川県	73	68	0.75	0.9
15 新潟県	27	7	0.29	0.3
16 富山県	18	4	0.37	0.2
17 石川県	13	6	0.51	0.5
18 福井県	3	8	0.99	2.7
19 山梨県	12	17	1.97	1.4
20 長野県	10	19	0.88	1.9
21 岐阜県	42	22	1.06	0.5
22 静岡県	68	51	1.35	0.8
23 愛知県	115	86	1.16	0.7
24 三重県	28	19	1.02	0.7
25 滋賀県	28	18	1.28	0.6
26 京都府	36	29	1.10	0.8
27 大阪府	148	84	0.95	0.6
28 兵庫県	84	33	0.59	0.4
29 奈良県	27	10	0.71	0.4
30 和歌山県	25	23	2.29	0.9
31 鳥取県	8	9	1.53	1.1
32 島根県	13	11	1.53	0.8
33 岡山県	59	29	1.49	0.5
34 広島県	68	60	2.10	0.9
35 山口県	17	10	0.69	0.6
36 徳島県	21	10	1.27	0.5
37 香川県	26	3	0.30	0.1
38 愛媛県	21	19	1.33	0.9
39 高知県	20	15	1.96	0.8
40 福岡県	83	40	0.79	0.5
41 佐賀県	26	9	1.06	0.3
42 長崎県	33	27	1.89	0.8
43 熊本県	52	46	2.53	0.9
44 大分県	13	31	2.59	2.4
45 宮崎県	40	26	2.29	0.7
46 鹿児島県	86	58	3.40	0.7
47 沖縄県	122	86	6.17	0.7
計	1,824	1,424		

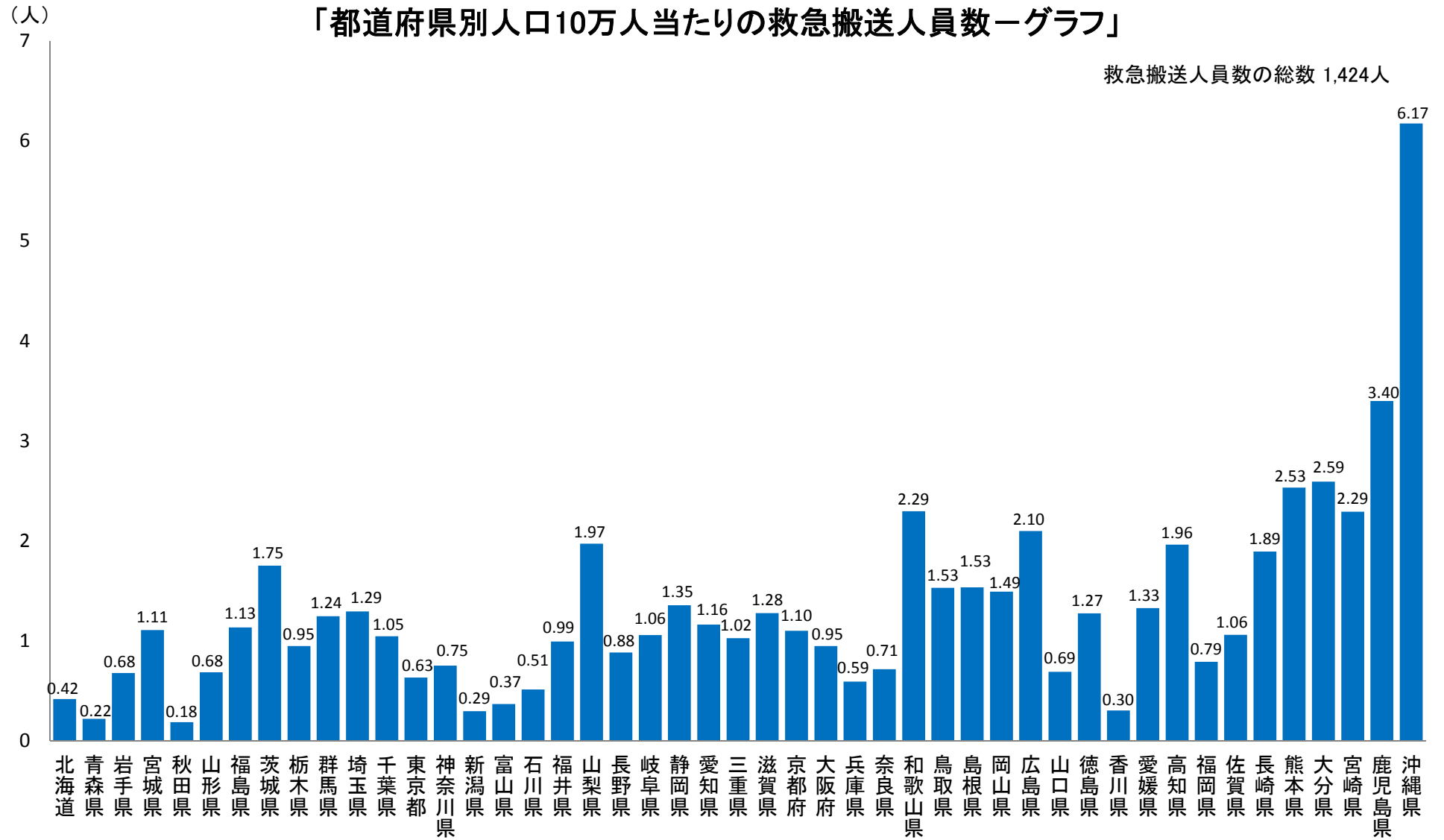
資料3

都道府県別熱中症による救急搬送状況(9月) 「救急搬送人員数昨年比ーグラフ」



資料4

都道府県別熱中症による救急搬送状況(9月)
「都道府県別人口10万人当たりの救急搬送人員数ーグラフ」



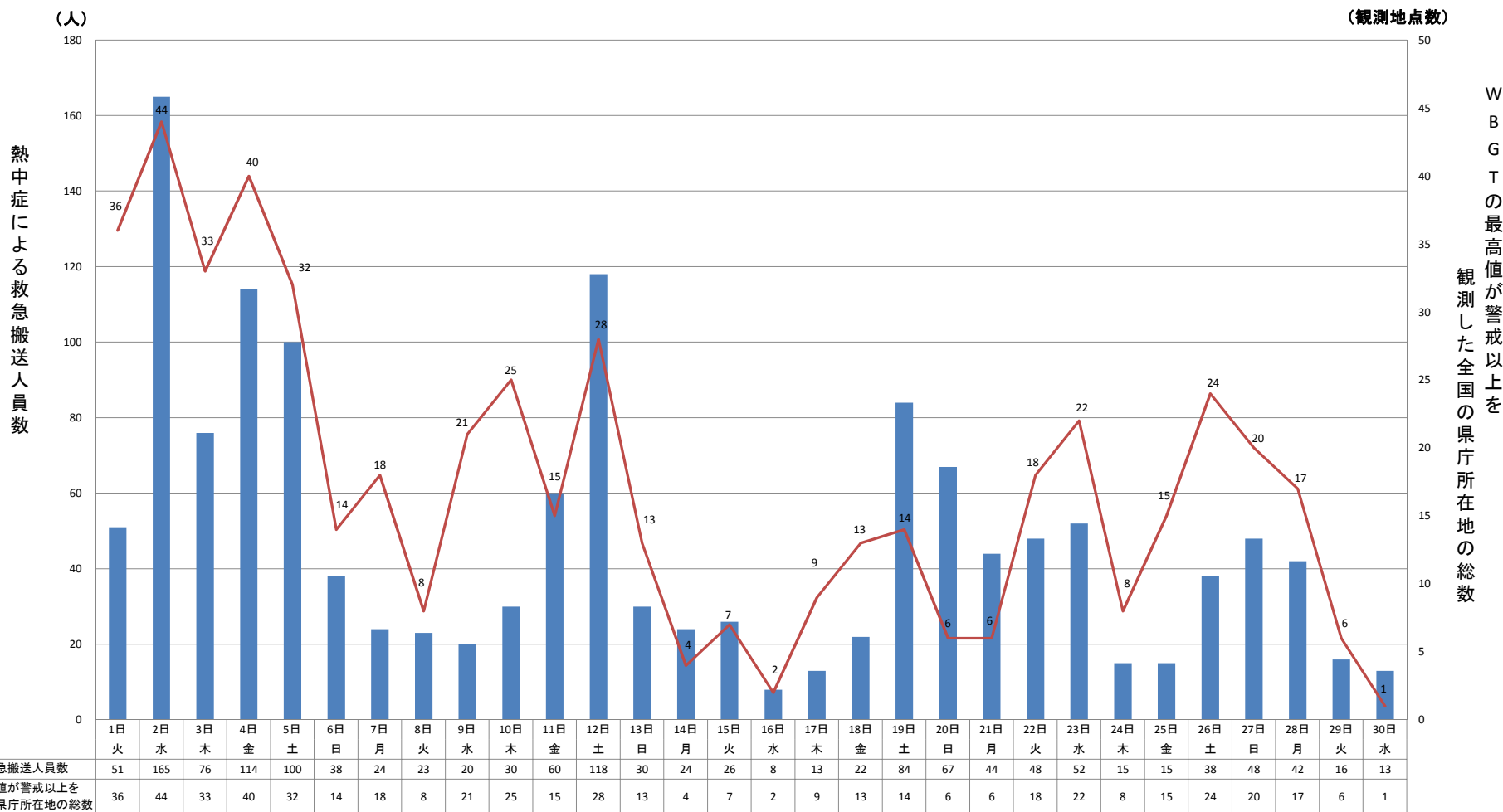
資料5

全国の熱中症による救急搬送状況(9月)

「日別の年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数一表」

日付	曜日	熱中症 搬送人員(人)	年齢区分(人)						初診時における傷病程度(人)					
			新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合計	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
9月1日	火	51	0	0	7	21	23	51	0	0	17	33	1	51
9月2日	水	165	0	0	15	77	73	165	0	4	44	114	3	165
9月3日	木	76	0	2	6	33	35	76	0	1	31	44	0	76
9月4日	金	114	0	2	18	34	60	114	0	5	31	78	0	114
9月5日	土	100	0	0	24	23	53	100	0	0	28	68	4	100
9月6日	日	38	0	0	5	19	14	38	0	0	17	21	0	38
9月7日	月	24	0	1	1	8	14	24	0	0	4	20	0	24
9月8日	火	23	0	0	6	7	10	23	0	1	8	14	0	23
9月9日	水	20	0	1	2	7	10	20	0	0	8	12	0	20
9月10日	木	30	0	1	7	11	11	30	0	0	5	25	0	30
9月11日	金	60	0	0	14	15	31	60	0	0	16	44	0	60
9月12日	土	118	0	2	23	52	41	118	0	1	28	89	0	118
9月13日	日	30	0	0	6	10	14	30	0	0	9	21	0	30
9月14日	月	24	0	0	8	6	10	24	0	3	3	18	0	24
9月15日	火	26	0	1	3	13	9	26	0	0	8	18	0	26
9月16日	水	8	0	1	3	2	2	8	0	0	4	4	0	8
9月17日	木	13	0	1	3	3	6	13	0	0	5	8	0	13
9月18日	金	22	0	0	3	4	15	22	0	0	7	15	0	22
9月19日	土	84	0	3	19	35	27	84	0	0	14	69	1	84
9月20日	日	67	0	6	12	22	27	67	0	3	13	51	0	67
9月21日	月	44	0	1	12	18	13	44	0	0	10	34	0	44
9月22日	火	48	0	0	11	12	25	48	0	1	12	35	0	48
9月23日	水	52	0	1	8	19	24	52	0	1	15	36	0	52
9月24日	木	15	0	0	1	4	10	15	0	1	4	10	0	15
9月25日	金	15	0	0	1	4	10	15	0	0	5	10	0	15
9月26日	土	38	0	1	8	12	17	38	0	0	17	21	0	38
9月27日	日	48	0	2	5	17	24	48	1	1	9	37	0	48
9月28日	月	42	0	0	4	15	23	42	0	1	12	29	0	42
9月29日	火	16	0	1	2	7	6	16	0	0	5	11	0	16
9月30日	水	13	0	0	1	6	6	13	0	0	4	9	0	13
計		1,424	0	27	238	516	643	1,424	1	23	393	998	9	1,424
熱中症の搬送人員に対する割合			0.0%	1.9%	16.7%	36.2%	45.2%	100.0%	0.1%	1.6%	27.6%	70.1%	0.6%	100.0%

日別の救急搬送人員数(全国)と暑さ指数(WBGT)データとの比較ーグラフ(9月)



【参考】

- (1) 暑さ指数(WBGT(湿球黒球温度): Wet Bulb Globe Temperature)とは、熱中症を予防することを目的として1954年にアメリカで提案された指標です。単位は気温と同じ摂氏度(°C)で示されますが、その値は気温とは異なります。暑さ指数は(WBGT)は人体と外気との熱のやりとり(熱収支)に着目した指標で、人体の熱収支に与える影響の大きい①湿度、②日射・輻射など周囲の熱環境、③気温の3つを取り入れた指標です。
- (2) 全国841地点数のうち、47都道府県の県庁所在地の総数と比較しています。
- (3) 暑さ指数(WBGT)の温度基準、注意すべき生活活動の目安、注意事項(右図)環境省HPより抜粋
- (4) 環境省熱中症予防情報サイト <http://www.wbgt.env.go.jp/>

温度基準 (WBGT)	注意すべき生活活動の目安	注意事項
危険 (31℃以上)	すべての生活活動でおこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が大きい。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。
厳重警戒 (28～31℃※)		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。
警戒 (25～28℃※)	中等度以上の生活活動でおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に充分に休息を取り入れる。
注意 (25℃未満)	強い生活活動でおこる危険性	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。

※ (28～31℃) 及び (25～28℃) については、それぞれ28℃以上31℃未満、25℃以上28℃未満を示します。日本気象学会「日常生活における熱中症予防指針Ver.3」(2013)より

資料7

平成22年～27年の熱中症による 救急搬送人員数及び死亡者数一覧一表

(単位:人)

		平成27年(2015)		平成26年(2014)		平成25年(2013)		平成24年(2012)		平成23年(2011)		平成22年(2010)	
		搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡
確定値	5月	2,904	3	調査データなし									
	6月	3,032	2	4,634	6	4,265	4	1,837	3	6,980	14	2,276	4
	7月	24,567	39	18,407	31	23,699	27	21,082	37	17,963	29	17,750	95
	8月	23,925	60	15,183	15	27,632	57	18,573	35	17,566	27	28,448	62
	9月	1,424	1	1,824	3	3,133	0	4,209	1	3,960	3	7,645	10
搬送人員数合計		55,852	105	40,048	55	58,729	88	45,701	76	46,469	73	56,119	171

※平成27年は4月27日から調査を開始

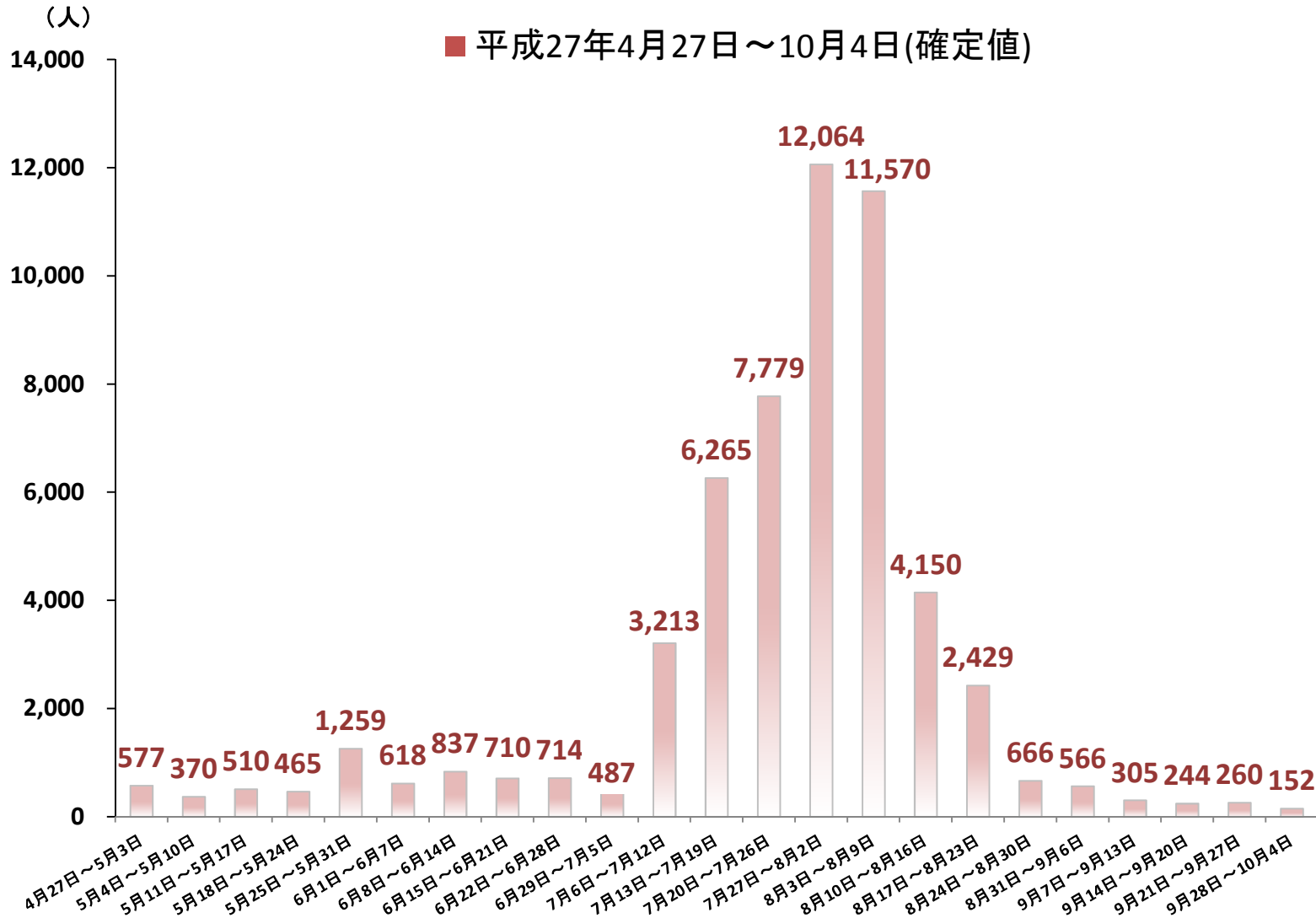
平成26年は5月19日から調査を開始

(参考) 梅雨明けの時期

	平成27年(2015)	平成26年(2014)	平成25年(2013)	平成24年(2012)	平成23年(2011)	平成22年(2010)	(平年)
沖縄	6月8日ごろ	6月26日ごろ	6月11日ごろ	6月23日ごろ	6月9日ごろ	6月19日ごろ	6月23日ごろ
九州	7月14～29日ごろ	7月16～20日ごろ	7月8日ごろ	7月23日ごろ	7月8日ごろ	7月17～20日ごろ	7月14～19日ごろ
中国・四国	7月24日ごろ	7月20日ごろ	7月8日ごろ	7月17日ごろ	7月8日ごろ	7月17日ごろ	7月18～21日ごろ
近畿・東海	7月24日ごろ	7月20～21日ごろ	7月7～8日ごろ	7月16～23日ごろ	7月8日ごろ	7月17日ごろ	7月21日ごろ
関東甲信	7月10日ごろ	7月21日ごろ	7月6日ごろ	7月25日ごろ	7月9日ごろ	7月17日ごろ	7月21日ごろ
北陸	7月25日ごろ	7月21日ごろ	8月7日ごろ	7月26日ごろ	7月8日ごろ	7月17日ごろ	7月24日ごろ
東北	7月26～29日ごろ	7月25日ごろ	8月7～10日ごろ	7月26日ごろ	7月9日ごろ	7月18日ごろ	7月25～28日ごろ

資料8

平成27年の熱中症による救急搬送状況(週別推移)ーグラフ

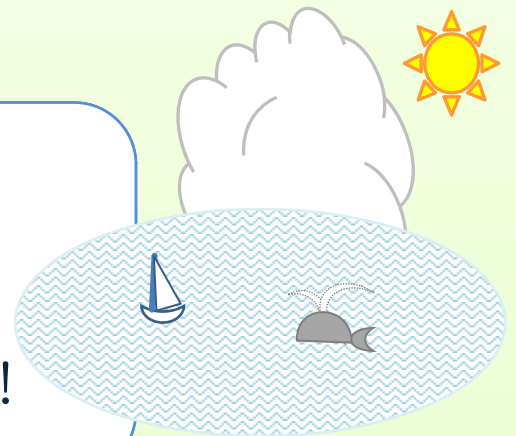


* 暫定値(青)と速報値(緑)の救急搬送人員数は、後日修正されることもありますのでご了承ください。

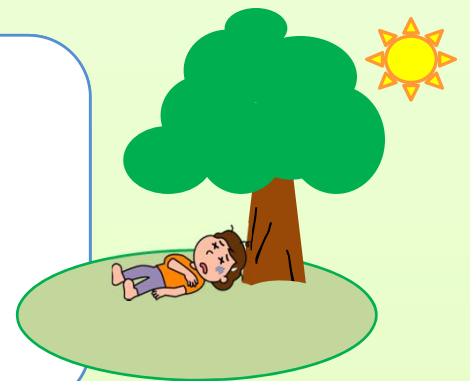
熱中症を予防して元気な夏を！



夏に向けて、熱中症になる人が増えてきます。
熱中症を知って、しっかり予防し、楽しい夏を過ごしましょう！



このリーフレットでは、熱中症の症状や応急手当を紹介しています。



救急車を呼んで、一刻も早く病院へ行くべき状態や症状についても紹介しています。
当てはまる場合は、ためらわずに119番しましょう。

※消防庁が作成した「救急受診ガイド」や、「救急車利用リーフレット」も合わせてご覧ください
(消防庁HP「<http://www.fdma.go.jp/>」の右側のバナーをクリック)



心臓や腎臓、その他持病をお持ちの方は、夏の過ごし方についてかかりつけの医師に相談し、上手にコントロールしましょう。

消防庁

FDMA
住民とともに

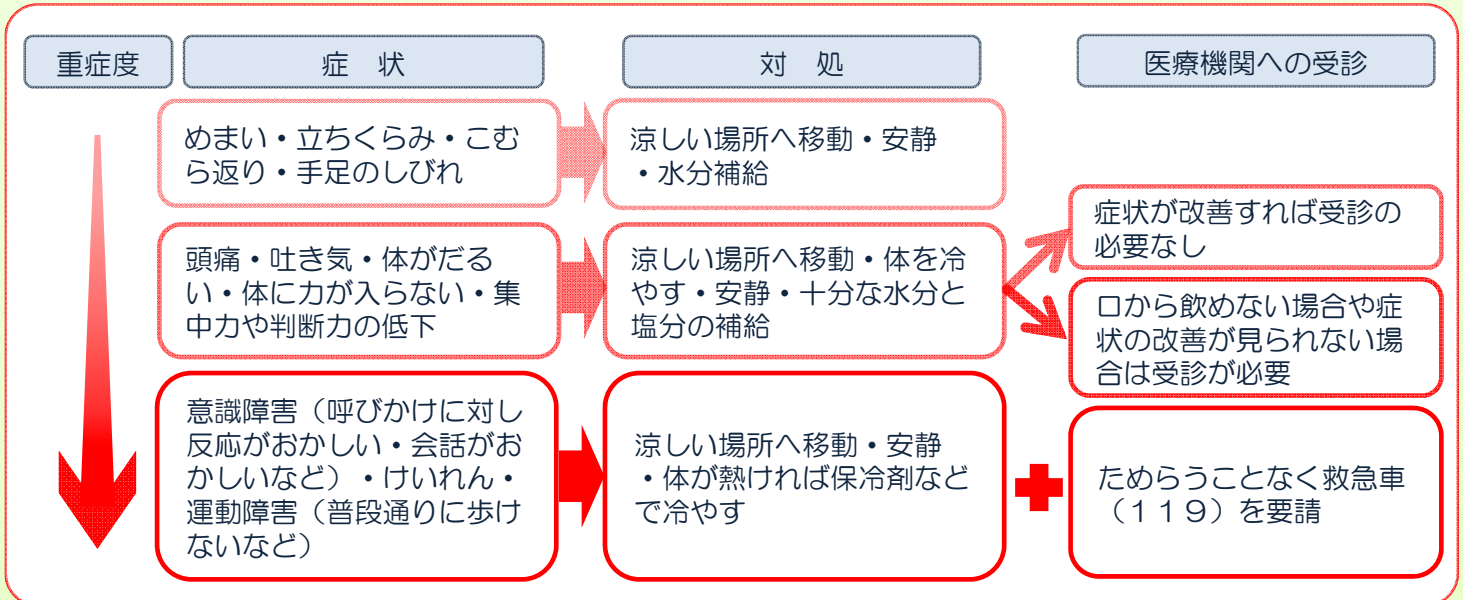
<http://www.fdma.go.jp/>

熱中症とは？

室温や気温が高い中で、体内の水分や塩分（ナトリウム）などのバランスが崩れ、体温の調節機能が働かなくなり、体温上昇、めまい、体のだるさ、ひどいときには、けいれんや意識の異常など、様々な障害をおこす症状のことです。

家の中でじっとしていても室温や湿度が高いために、体から熱が逃げにくく熱中症になる場合がありますので、注意が必要です。

熱中症の分類と対処方法



こんな時はためらわずに救急車を呼びましょう



- 自分で水が飲めなかったり、脱力感や倦怠感が強く、動けない場合は、ためらわずに救急車を呼んでください。
- 意識がない（おかしい）、全身のけいれんがあるなどの症状を発見された方は、ためらわずに救急車を呼んでください。

熱中症予防のポイント

- ☺ 部屋の温度をこまめにチェック！
(普段過ごす部屋には温度計を置くことをお奨めします)
- ☺ 室温28℃を超えないように、エアコンや扇風機を上手に使いましょう！
- ☺ のどが渇く前に水分補給！
- ☺ のどが渇かなくてもこまめに水分補給！
- ☺ 外出の際は体をしめつけない涼しい服装で、日よけ対策も！
- ☺ 無理をせず、適度に休憩を！
- ☺ 日頃から栄養バランスの良い食事と体力づくりを！



子供の特徴

地面の照り返しにより、高い温度にさらされる



汗腺などが未熟

体温調節機能が未熟なため、**熱中症にかかりやすい**

保護者の方へ

- 👉 お子さんの様子を十分に観察しましょう！
- 👉 遊びの最中には、水分補給や休憩を！
- 👉 外出時の服装に注意し、帽子も忘れずに！
- 👉 日頃から栄養バランスのとれた食事や運動、遊びを通して暑さに負けない体づくりを実践しましょう！

高齢者の特徴

のどの渇きを感じにくい



暑さを感じにくい

汗をかきにくい

体温を下げるための体の反応が弱くなっており、**自覚がないのに熱中症になる危険がある**

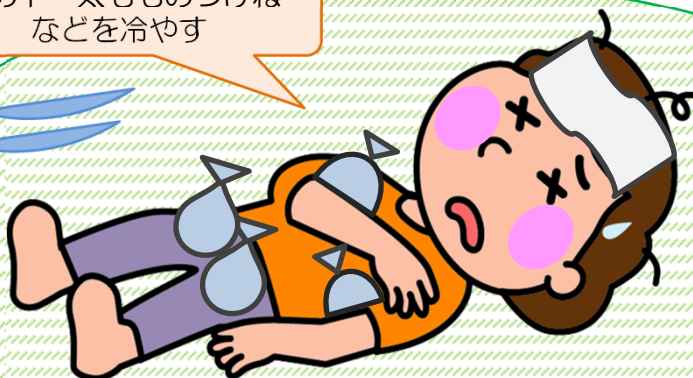
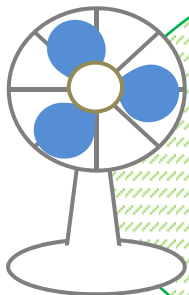
熱中症にならないために

- 👉 室温をこまめにチェックし、エアコンや扇風機等を活用！
- 👉 のどが渇かなくても水分補給！
- 👉 調子が悪いと感じたら、家族や近くの人にそばにいてもらいましょう！

+ 熱中症の応急手当 +

- + 涼しい場所へ移動し、衣服を緩め、安静に寝かせる
- + エアコンをつける、扇風機・うちわなどで風をあて、体を冷やす

脇の下・太もものつけねなどを冷やす



飲めるようであれば水分を少しずつ頻回に取らせる



🚨 持病をお持ちの方やお子さんは、かかりつけの医師とあらかじめ相談し、熱中症対策についてアドバイスをもらっておきましょう



消防庁では、夏期（6月～9月）における熱中症による救急搬送の全国調査を実施しています。年代別では高齢者が4割を占めており、また、乳幼児と少年を合わせると1割以上となっています。熱中症による救急搬送者のうち、約4割の方が入院しています。

6月～9月の熱中症による救急搬送者の内訳（平成22年～平成26年合計）

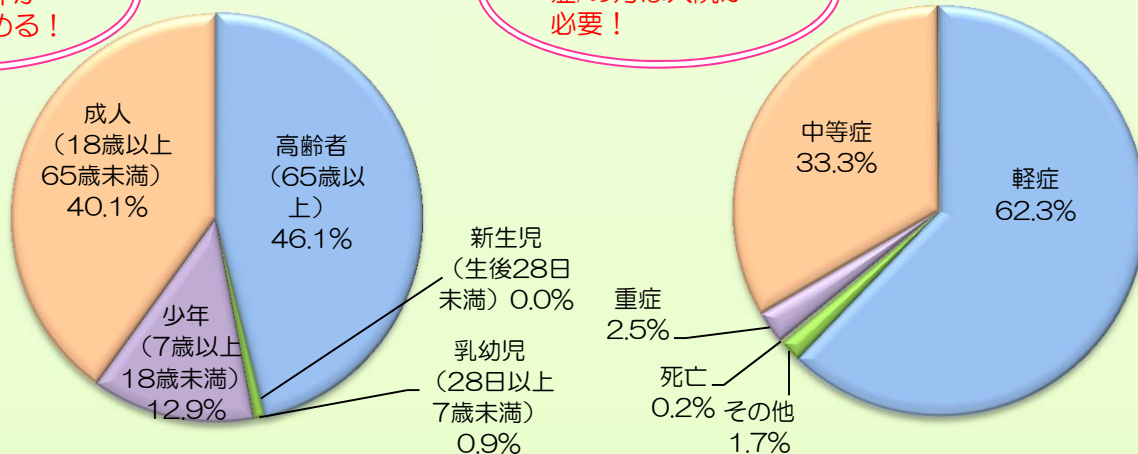
搬送人員計 247,066人

【年齢区分別】

【傷病程度別】

高齢者が約4割、
乳幼児と少年が
約1割を占める！

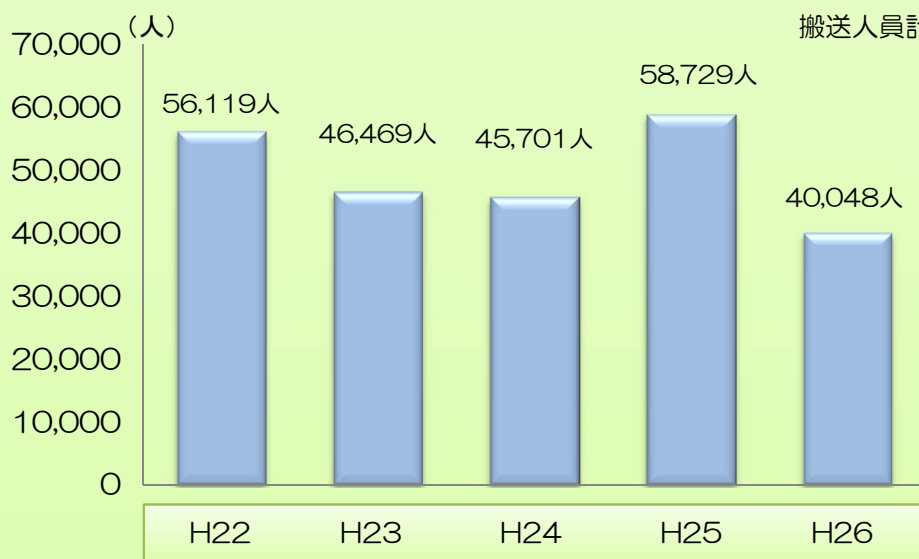
約4割(重症・中等
症)の方は入院が
必要！



熱中症により、毎年約4万人以上の方が救急搬送されています。熱中症による救急搬送者増加の要因として、気温や湿度の上昇が関係していることが分かっています。特に、梅雨明け前後の暑さには、最も注意が必要です！！

熱中症による救急搬送者数（平成22年～平成26年 6月～9月）

搬送人員計 247,066人



◆ 消防庁では、HP上で熱中症の救急搬送状況調査の速報を週ごとに公表しています。
URL : <http://www.fdma.go.jp/>

参考

環境省：「熱中症環境保健マニュアル」 http://www.env.go.jp/chemi/heat_stroke/manual.html

消防庁

FDMA
住民とともに

<http://www.fdma.go.jp/>

事 務 連 絡
平成 27 年 5 月 27 日

各都道府県防災主管部（局）長 殿

消防庁救急企画室長

熱中症予防対策の強化について

平素より、救急行政の推進について御理解、御協力いただき御礼申し上げます。

今年、5月中から30℃以上の真夏日を観測する地域が続出しており、調査を開始した4月27日から5月24日までの熱中症搬送人員数の総数はすでに1,808人(速報値)となりました。6月を前に全国各地の学校関係の施設等において、運動会などの屋外イベントが多数開催され、少年^{※1}の熱中症による傷病者発生事案が多発しています。また、高齢者の死亡例も2例報告されています。気象庁によると、今後暑い日が続くとこの予報が出されており、引き続き熱中症対策の強化が必要です。

消防庁ではこまめな水分補給などの熱中症予防策等について紹介した「熱中症対策リーフレット」を作成・公表したほか、ツイッターを通じてきめ細かな注意喚起を図っているところです。

貴職におかれましても、貴管内市町村（消防の事務を処理する組合を含む。）に対し、早い時期からの熱中症対策強化について更なる取組を進めるため、地域住民に対して、熱中症予防対策について、消防機関主催の各種イベント、自主防災訓練及び応急手当講習等、あらゆる機会を通じて積極的に周知を行うとともに、消防機関主催のイベント等における熱中症対策にも留意して頂きますよう、よろしくご指導をお願い致します。

※1 「少年」は満7歳以上満18歳未満の者をいう。

消防庁救急企画室 寺谷・平井・足立 電 話 03-5253-7529 F A X 03-5253-7539
--

各都道府県防災主管部（局）長 殿

消防庁救急企画室

平成 27 年度 熱中症対策リーフレットの配布について

平素より救急行政の推進につきまして御尽力いただき御礼申し上げます。

消防庁では熱中症予防の普及啓発活動を推進しており、その一環として今年の熱中症による救急搬送人員数調査は、これまでゴールデンウィーク前後に熱中症の発生が多く見られた事をふまえて、例年の調査開始時期より 1 ヶ月前倒して、4 月 27 日から開始しています。また、政府においては、熱中症の予防対策の強化をはかるため、7 月を「熱中症予防強化月間」とし、熱中症対策を分担・連携して推進しております。こうした中、消防庁では平成 27 年度版に更新した「熱中症対策リーフレット」を下記のとおり貴都道府県内市町村（消防の事務を処理する一部事務組合を含む。）に送付いたしますのでご承知おきください。

記

1 リーフレットの目的

熱中症においては、正しい知識を身につけ、適切に予防することが重要です。熱中症による救急搬送者数や死亡者数の急増する 7 月の「熱中症予防強化月間」にあわせて、各種イベント、自主防災訓練及び応急手当講習等で住民へ配布していただき、熱中症の予防法や応急処置等について、より一層の周知を図ることを目的としています。

2 掲載内容

- (1) リーフレットの全体像（おもて表紙）
- (2) 熱中症とは？、熱中症の分類と対処方法、救急車を呼ぶタイミング、熱中症予防のポイント（見開き左）
- (3) 子供と高齢者の特徴、熱中症の応急手当（見開き右）
- (4) 過去の熱中症による救急搬送の状況（うら表紙）

3 留意事項

- (1) 今回は、熱中症が急増する 7 月までに各消防本部へ届くようにするため、各消防本部に直接送付させて頂いています。
- (2) 消防庁ホームページに PDF 版を掲載していますので、各消防本部で増刷しご活用ください。<http://www.fdma.go.jp/html/data/tuchi2705/pdf/270501-1.pdf>

4 ご参考：配布枚数の考え方

消防庁において用意した枚数を管轄人口に応じて配布しています。

(人口 10 万あたり約 640 枚)

【連絡先】

消防庁救急企画室

寺谷専門官、平井係長、足立事務官

TEL : 03-5253-7529

FAX : 03-5253-7539

E-mail : kyukyurenkei@ml.soumu.go.jp

事 務 連 絡

平成 27 年 8 月 5 日

各都道府県防災主管部（局）長 殿

消防庁救急企画室長

熱中症予防対策の強化について

平素より、救急行政の推進について御理解、御協力いただき御礼申し上げます。
政府においては、熱中症の予防対策の強化を図るため、熱中症による救急搬送者数や死亡者数の急増する 7 月の「熱中症予防強化月間」にあわせて、消防庁では「熱中症対策リーフレット」を全国の消防本部へ配布した他、ツイッターによるきめ細やかな情報の発信を行うなど、必要な対策を講じているところです。

一方、全国の消防本部からの報告によると、7 月 27 日から 8 月 2 日までの一週間における熱中症による救急搬送人員数の総数は 1 万 1,672 人（速報値）と、平成 20 年からの調査開始以来「最多」の搬送人員数となりました。

また、気象庁の週間天気予報によると 8 月 5 日から 8 月 11 日までの期間において、最高気温・最低気温とも、期間の中頃までは平年より高く、平年よりかなり高い所もあると予想されており、今後更なる熱中症の発生が危惧されます。

このことから、貴職におかれましても、貴管内市町村（消防の事務を処理する組合を含む。）に対し、熱中症対策強化について更なる取組を進めるため、地域住民に対して、熱中症予防対策について、消防機関主催の各種イベント、自主防災訓練及び応急手当講習等、あらゆる機会を通じて積極的に周知を行うとともに、消防機関主催のイベント等における熱中症対策にも留意して頂きますよう、よろしくご指導をお願い致します。

消防庁救急企画室

寺谷・平井・足立

電 話 03-5253-7529

F A X 03-5253-7539

平成27年度 救急業務のあり方に関する検討会 検討事項

- 高齢化の進展等を背景として救急需要が増大し、病院収容時間が延伸する一方、救急隊の増加には限界があり、今後、救急業務を安定的かつ持続的に提供していくためには、
 - ① 限りある社会資源を賢く活用し、公正に配分するとともに、
 - ② 救急業務の質の向上を通して適切なサービスを提供し、救命率の向上を図ることが必要。

以上①②の目標を達成するため、以下の事項について検討を行う。

目標① 関連

- 社会資源の有効活用の視点から、消防機関外の資源の活用を推進するとともに、関係機関との連携を強化する。

新規 I. 消防機関以外の救急救命士の活用
消防機関に属しない救急救命士が、救急隊に引き継ぐまでの処置等を担う仕組みを構築

新規 II. 救急車の適正利用の推進
限りある搬送資源を、緊急性の高い事案に優先して投入するため、救急車の適正利用を推進する

継続 III. 緊急度判定体系の普及（WG設置）
社会全体へ緊急度判定体系の普及を促進し、救急医療資源を有効活用し、緊急性の高い傷病者を確実に搬送

目標② 関連

- 消防機関内部で救急業務の質の向上に向けた取組を推進し、適切なサービスを提供する。

新規 IV. 個別事案の分析による、搬送時間延伸の要因の解決
精神疾患、独居高齢者の搬送等、現場対応が困難な事例について個別に調査分析

継続 V. 救急業務に携わる職員の教育（WG設置）
指導救命士の養成に係るテキストの完成

新規 VI. 蘇生ガイドラインの改訂への対応（WG設置）
一般市民・救急隊・通信指令員が行う応急処置等に関する各種要領等の改訂

継続 VII. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会への対応
外国人対応や熱中症対策等に関する課題について詳細な実態調査に着手し、具体的な方策について取りまとめる